

## 松江市における子育て環境に関する研究 —子育て家庭の図書館利用の調査から—

小山 優子<sup>1</sup>

### A Study on the Child Care Environment for Families in Matsue City -Through Questionnaire Survey on the Library and Child Care Support Center-

Yuko Koyama<sup>1</sup>

It is necessary to prepare the care environment for families who have their Infants and young children, and move ahead on the various support and activities, programs by educational administration system of early childhood care and education. This study is tried to find the utilization rate and valuation of library and child care support center in Matsue City by rearing families. As the result, half of the family use them and they evaluate a little good, but it is required the parking place, and various play area and indoor playroom for Infant and children. More importantly they will carry out the role as the public facilities and well-filled service for rearing families.

**Key Words:** care environment, library, child care support for families

#### 1. はじめに

平成6年12月に国が策定した「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について(エンゼルプラン)」を受け、平成7年4月に、厚生省児童家庭局より「特別保育事業の実施について」<sup>(1)</sup>が出された。これは、福祉的な側面から少子化の進行をくい止める手だてとして、特別事業の実施を推奨するものである。これを受け、平成10年には「特別保育事業実施要綱」<sup>(2)</sup>が通知され、地域のニーズに合わせながら進めていく方向が示されている。具体的には、全国の保育所や幼稚園などの保育現場を拠点に、様々な試みが行われている<sup>(3)</sup>。

この法令の中では、子育て家庭だけが育児や教育を担うのではなく、地域社会全体で子どもや家庭を育成してゆくという趣旨が色濃く示されており、そのために保育所や幼稚園がその中心になることを想定している。確かに、保育所や幼稚園では、現在の家庭のニーズに対応するように、様々な事業を展開している。しかし、「地域全体で」ということが叫ばれる中、子育て家庭を支える地域としての子育て環境が整っているかについては、それほど問われていないようである。子

育て支援とは、子育て家庭が子どもを養育しやすい環境づくりをすることである。子育て家庭の親や子どもが、日々楽しく生活できるということは、子育て家庭が関わっている施設を全体的に見渡してその環境を整え、家族を支援をしてゆくという視点を忘れてはならないのではないかと。そのような問題意識から、子育て環境について松江市の事例をもとに考えてみることにする。なお、本稿は「松江市における子育て環境に関する研究」<sup>(4)</sup>の継続研究である。

前述の研究<sup>(4)</sup>では、松江市の子育て環境の一つである「公園」を取り上げ、子育て家庭は、公園をどのくらい利用しているのか、公園に対してどのような思いがあるのか、現在の公園をどう改善してほしいと思っているのかを調査した。その結果、乳幼児から小学校に通う児童のいる家庭までの幅広い層において、我が子の教育のために、保護者は現在居住している地域の公園の充実を強く願っていることが明らかとなった。特に、家から歩いていける距離に、子どもが安全で楽しく遊べるような公園、子どもの発達段階に合った様々な工夫のある公園が整備されることを強く希望していた。また、松江市の公園の問題点も多数指摘され

1 島根県立島根女子短期大学講師

ると同時に、今後の行政の在り方についても意見が挙げられた。これを踏まえ、この調査では、子育て家庭が利用する公共施設の一つである「図書館」や「子育て支援センター」についても同様に調べていくこととする。松江市にある「図書館」と「子育て支援センター」の利用状況を子育て家庭にたずね、各施設の充実度と改善点について質問した。この調査は、松江市における「歩いて暮らせる街づくり計画」<sup>6)</sup>との関連から実施したものであるが、この調査の結果をみることで、子育て家庭が利用する公共施設に求められるものは何であるかが明らかになり、今後の子育て環境を整備する際の手がかりになるのではないと思われる。

## 2. 調査方法

### 2-1. 調査対象

本調査は、子育て環境の一つである「図書館」や「子育て支援センター」がどのように利用されているかという実態を明らかにしながら、それらの充実度について考察するものである。小学校就学前の子どもを持つ家庭の父親や母親からみて、松江市にある「図書館」「子育て支援センター」はどう評価されているのかを探りながら、松江市におけるこれらの施設についての意見や問題点を挙げることとする。

調査の対象地域は、松江市の橋南に位置する幼稚園(3箇所)、保育所(1箇所)、子育て支援センター(1箇所)の計5カ所とし、アンケートの配布・回収にて実施した。調査期間は、平成12年9月-10月である。

### 2-2. 調査内容

この調査では、子育て家庭における図書館や子育て支援センターの利用状況の実態を明らかにすることを目的とするため、以下の3点について質問した。

#### 1) 回答者の背景

回答者の①現住所、②家族構成、③家庭での勤務形態、④子どもの年齢、⑤家庭における乗物の保有台数(自転車、オートバイ、自家用車)を訊ねた。

#### 2) 「図書館」や「子育て支援センター」の利用状況

内容は、①図書館利用の有無、②図書館の利用頻度、③利用日と利用者(保護者)、④利用する場所と交通機関等の利用状況、⑤利用にかかる距離と時間の5点である。

#### 3) 「図書館」や「子育て支援センター」に対する評価と意見

これらの施設の充実度について、5段階評定でたずねた。また、利用する施設のよい点と改善点について質問し、今後、これらの施設がどのように改善されるとよいかといった意見や、どのような子育て環境を求

めているかについて、自由記述にて意見をうかがった。

### 2-3. アンケート回答者の背景

アンケートの配布は548通で、296通(54.0%)の回答があった。そのうち、松江市以外に居住の家庭や小学校就学前の子どものいる家庭以外の回答、及び松江市の中心地から外れる回答を除いたため、有効回答数は262通(47.8%)となった。

回答者の背景のうち、地域特性、家族形態、保護者の勤務形態、子どもの数と年齢、自動車の保有台数の詳細については、前述の調査を参照。以下、簡単にまとめておく。

#### 1) 回答者の地域特性

回答者262人のうち、子育て家庭の所在地は、松江駅を中心とした半径3-5km圏内に含まれている。補足としてつけ加えておくと、A幼稚園は、松江駅から南へ300-500m圏内に位置しているため、回答者の居住地域も、灘町、寺町、朝日町、雑賀町、東朝日、西津田などの半径1km圏内にある。B保育園については、松江駅から南西へ1km圏内にある。一方、C幼稚園は松江駅から南へ2.5kmほど離れた郊外にあり、上乃木、浜乃木、乃木福富、乃白などの地域になる。またD幼稚園は松江駅から南へ3kmほど離れた郊外にあり、古志原、浜乃木、八雲台、山代などの地域になる。

#### 2) 各家庭における子どもの数

この調査において、一家庭あたりの平均の子どもの数は、2.2人である。全体からみた構成比は、子どもの数が1人の家庭は18%、2人の家庭は45%、3人の家庭は36%、4人以上は2%である。

#### 3) 各家庭における自動車の保有台数

各家庭における自動車の保有台数は、全体平均で1.7台で、そのうち、専業家庭における保有台数は1.4台であるのに対し、祖父母と同居の家庭では2.5台となっている。ほとんどの家庭では自動車が一家に1台はあるということがうかがえる。

## 3. 家庭における図書館利用の実態

### 3-1. 図書館利用の有無

回答者に子どもと一緒に図書館を利用するかどうかを質問した。それによると、262人中、132人(50.4%)の家庭が図書館を利用すると答え、130人(49.6%)の家庭が利用しないと答えた。よって、全体のうち半数の家庭は、子どもとともに図書館を利用していることがわかる。

### 3-2. 利用する頻度

表1 各施設における図書館の利用頻度

	A幼稚園	B保育所	C幼稚園	D幼稚園	E支援センター	合計	構成比(%)
過去利用	1	0	1	0	0	2	1.5
時々利用	0	0	1	0	2	3	2.3
月0-1回	7	8	15	11	2	43	32.6
月2-3回	13	4	14	3	3	37	28.0
週1回(月4)	3	1	10	4	0	18	13.7
週2-4回	0	0	3	0	1	4	3.0
不明	7	2	12	2	2	25	18.9
合計(人)	31	15	56	20	10	132	100.0

表2 各施設別の図書館利用先(複数回答)

	A幼稚園	B保育所	C幼稚園	D幼稚園	E支援センター	合計
市立図書館	9	10	31	15	8	73
県立図書館	2	0	4	2	0	8
公民館	8	3	31	6	3	51
女性センター	2	3	0	0	4	9
新聞社図書館	1	0	11	0	0	12
合計(人)	22	16	77	23	15	153

表3 市立図書館利用の際の交通機関(複数回答)

	A幼稚園	B保育所	C幼稚園	D幼稚園	E支援センター	合計
徒歩	8	3	0	0	1	10
自転車	10	4	4	1	0	19
バス	0	1	1	1	0	3
自動車	5	19	24	13	7	68
不明	1	0	2	0	0	3
合計(人)	22	27	31	15	8	103

「図書館を利用する」と答えた保護者に対し、どのくらいの頻度で図書館を利用しているのかについて質問した。図書館の利用頻度の割合は表1に示している。これを見ると、月0-1回利用が32.6%と一番多く、次いで月2-3回利用が28.0%となっている。また、頻度において不明が多い理由は、あまり図書館を利用していないため、明確に書かなかったものと思われる。それゆえ、図書館を「過去利用」や「時々利用」に近い回答ではないかと推測される。

### 3-3. 各園の図書館の利用状態

よく利用する図書館についてたずねたところ、松江市立図書館、島根県立図書館、各地域の公民館、スティックビル内にある女性センターの図書館、新聞社の図書室などであった。各園の利用頻度は、表2に示している。

### 3-4. 松江市立図書館に関する分析

#### (1) 松江市立図書館を利用する際の交通手段

今回の調査地域が、松江市の橋北地域であったため、松江市立図書館への利用が多かった。それゆえ、市立図書館を利用する際の交通手段を、各園ごとに質問

表4 松江市立図書館についての充実度

	回答者数(人)	構成比(%)
かなり思う	13	15.5
やや思う	41	48.8
どちらでもない	22	26.2
あまり思わない	8	9.5
全く思わない	0	0.0
合計	84	100.0

した。その詳細は表3に示している。

この表をみると、A幼稚園やB保育所は徒歩が9人、自転車が14人もいるが、C幼稚園やD幼稚園では、徒歩が0人、自転車が5人であった。距離的なことを考えると、C・D幼稚園に通っている家庭では、子どもを連れて徒歩で図書館に行くことは不可能であり、そのため自動車の利用が多くなっているといえる。

#### (2) 松江市立図書館に対する充実度

松江市立図書館をよく利用する人に対し、図書館の内容の充実度について質問した。回答は、「1. かなり思う」「2. やや思う」「3. どちらでもない」「4. あまり思わない」「5. 全く思わない」の5段階評定でたずねた。その結果は、表4に示している。これを見ると、「1. かなり思う」(15.5%)と「2. やや思う」(48.8%)と挙げた人が全体の6割以上あり、「5. 全く思わない」と挙げた人が0%であったことから、全体的に図書館の内容についての評価が高いといえる。

#### (3) 松江市立図書館のよい点

松江市立図書館の利用者に、利用していてどの点がよいかを自由記述で質問した。その結果は以下の通りである。なお、カッコ内の数字は回答者の件数で、複数回答可としている。

##### 1) 本の種類・数・質に関する事項

- ・本の種類や量が多い(8件)。
- ・子ども向けの本が多い(20)。うち、本の種類で充実しているものとして、絵本9件、マンガ2件、工作関係の本1件であった。
- ・大人向けの本(文庫本、雑誌、新刊、専門書)が多い(7)。
- ・本が新しい(1)。

##### 2) 本を読む場所に関する事項

- ・子ども用、大人用に本を読む場所がある(9)。
- ・床に座って、ソファで読める(1)。
- ・本の紹介が子どもの目に入りやすく工夫されてい

表5 松江市立図書館を利用しない理由（複数回答）

項目	件数	構成比(%)
図書館や公民館以外の場所で借りるから	94	34.6
図書館の場所が遠いから	52	19.1
時間がないから	38	14.0
絵本は購入することが多いから	33	12.1
子どもが騒ぐから	21	7.7
絵本は知り合いなどにもらうことが多いから	15	5.5
図書館の場所を知らないから	8	2.9
図書館に行く交通手段がないから	4	1.5
駐車場がない・有料であるから	2	0.7
子どもが本を破くおそれがあるから	2	0.7
絵本の種類が少ないから	1	0.4
貸し借りがめんどうさいから	1	0.4
本を読まないから	1	0.4
合計	272	100.0

る(1)。

### 3) 本の貸借以外の事項

- ・2階のビデオルームでビデオが視聴ができる(5)。
- ・「お話の会」で絵本の読み聞かせが聞ける(4)。

### 4) 建物に関する事項

- ・図書館が広い。トイレが清潔。駐車場が整備してある(各1)。

### 5) サービスに関する事

- ・図書館にない本をリクエストして購入してもらえる(4)。
- ・図書の検索できる(2)。
- ・返却ボックスがあるので、いつでも返却できる(1)。
- ・一度に多くの本を借りることができる(1)。

### (5) 松江市立図書館を利用しない理由

市立図書館を利用しない人に、利用しない理由についてたずねた。その結果、表5の結果になった。この中で目立って多いのが、「図書館や公民館以外の場所で借りるから」という答えであった。これは全体のうちの138人(52.7%)の家庭がそのように答えており、具体的な場所として、子どもが通っている幼稚園、保育所、小学校を挙げていた。回答から、園に通っている子どもは、週に1回、絵本の貸出日があり、それを利用しているということが分かった。その次に多いのが、「図書館の場所が遠いから」であった。その内訳を見ると、A幼稚園が11人、B保育所が6人、C幼稚園が31人、D幼稚園が4人であったが、都心部から少し離れて住んでいる家庭にとって、市立図書館は頻りに利用できる図書館ではないようである。また、「子どもが騒いで周りに迷惑をかけるから」という答えを挙げ

ていた人が多いことから、様々な年齢の人が利用する図書館に、子ども連れで利用することの大変さがうかがえる。また同様に、「子どもが本を破かないか心配」など、子どもが公共の本を利用することについての不安もあるようである。他には、「忙しくて時間がない」「貸借が面倒」などの親の側の理由もあり、「本は買うことが多い」「本は知り合いにもらう」など、貸借の必要性を求めない人もいるといえる。

### (6) 松江市立図書館への要望

図書館をよく利用する人から、今後の改善点を質問した。その結果、4-4のよい点と反対の意見も挙げられた。多い意見を、以下にまとめてみる。

#### 1) 本の充実

- ・絵本や子ども向けの本を増やしてほしい(4件)。
- ・児童書が少ない(2)。
- ・大人(特に母親)向けの趣味関係の本や雑誌などを増やしてほしい(5)。
- ・新刊を入れてほしい(1)。本が破れていたり汚れていたりするので、新しい本を入れてほしい(1)。

#### 2) 本を読む場所の改善

- ・子どものコーナーが設けてあるだけなので、子どもの声が響き恐縮する。高齢者や勉強中の学生がいて独特の雰囲気があり、子どもが騒ぐので行きづらい(3)。
- そのための具体的な案として、
- ・絵本や児童書の部屋が大人と別室になっていると気兼ねしない(3)。
- ・子ども専用の日、子ども専用の時間など、子どもに開放する日を設けてほしい(3)。
- ・子どもが落ち着いて絵本を読んだり選んだりできるように、絨毯の敷いてあるスペースやチャイルドルームのような遊び場も設置してほしい(4)。

#### 3) 駐車場の問題

- ・30分の無料駐車券だけでは本が借りられない(16件)。雨の日によく図書館を利用するため、自動車で行くことになるので、せめて1時間くらいにしてほしい。絵本の読み聞かせの会がある時だけでも、2時間くらい無料にしてほしい。突然有料化されるのはおかしい。

#### 4) その他

- ・近くに充実した図書館を設置してほしい(4)。
- ・移動図書館がほしい(4)。
- ・祝祭日の休館日をやめてほしい移動図書館がほしい(1)。
- ・読み聞かせの会の回数を増やしてほしい移動図書館がほしい(1)。

表6 各施設における子育て支援センターの利用頻度

	A幼稚園	B保育所	C幼稚園	D幼稚園	E支援センター	合計	構成比(%)
過去利用	10	2	14	7	0	33	22.0
年数回利用	2	1	10	6	1	20	13.3
月0-1回	17	11	19	5	1	53	35.4
月2-3回	3	6	3	2	3	17	11.3
週1回(月4)	0	4	1	0	4	9	6.0
週2-4回	1	1	0	0	4	6	4.0
週5以上	0	0	0	0	1	1	0.7
不明	5	3	3	0	0	11	7.3
合計(人)	38	28	50	20	14	150	100.0

## 4. 家庭における

### 子育て支援センター利用の実態

#### 4-1. 子育て支援センター利用の有無

子育て家庭に対し、回答者に子どもと一緒に子育て支援センター<sup>⑥</sup>を利用するかどうかを質問した。それによると、262人中、150人(57.3%)の家庭が子育て支援センターを利用すると答え、112人(42.7%)の家庭が利用しないと答えた。よって、全体のうち半数強の家庭は、子どもとともに子育て支援センターを利用していることがわかる。

#### 4-2. 利用する頻度

「子育て支援センターを利用する」と答えた保護者に対し、どのくらいの頻度で図書館を利用しているのかについて質問した。図書館の利用頻度の割合は表6に示している。これを見ると、月0-1回利用が35.4%と一番多く、次いで過去利用が22.0%、年に数回利用が13.3%、月2-3回利用が11.3%となっている。この調査では、幼稚園や保育所に通う子どものいる家庭が全体の95%を占めているため、頻繁に利用するよりも、月1回や年に数回利用するケースが多いのではないかとはいえる。

#### 4-3. 各園の子育て支援センターの利用状態

よく利用する子育て支援センターについてたずねたところ、松江市白鷺本町・スティックビル内にある「おもちゃの広場」「子育て支援センターあいあい」、松江市千鳥町・総合福祉センター内にある「おもちゃの図書館」を利用すると答えた。そのうち、スティックビルを利用すると答えた人が103人(68.7%)、福祉センターは12人(2.3%)、不明が35人(2.3%)であった。調査対象が橋南であったことと子育て支援センターの規模が前者の方が大きいことから、スティックビルの利用者が多い結果になったといえる。

表7 子育て支援センター利用の際の交通機関(複数回答)

	A幼稚園	B保育所	C幼稚園	D幼稚園	E支援センター	合計	構成比(%)
徒歩	9	8	0	0	0	17	13.5
自転車	6	6	1	0	0	13	10.3
バス	0	0	2	1	1	4	3.2
自動車	22	14	30	13	13	92	73.0
合計(人)	37	28	33	14	14	126	100.0

表8 子育て支援センターについての充実度

	スティックビル(人)	構成比(%)	福祉センター(人)	構成比(%)
かなり思う	29	21.2	0	0.0
やや思う	55	40.2	7	58.3
どちらでもない	28	20.4	3	25.0
あまり思わない	7	5.1	0	0.0
全く思わない	0	0.0	0	0.0
不明	18	13.1	2	16.7
合計	137	100.0	12	100.0

#### 4-4. 子育て支援センターに関する分析

##### (1) 子育て支援センターを利用する際の交通手段

子育て支援センターを利用する際の交通手段を、各園ごとに質問した。その詳細は表7に示している。

この表をみると、A幼稚園やB保育所は徒歩が17人、自転車が12人もいるが、C幼稚園やD幼稚園では、徒歩が0人、自転車が1人であった。距離的なことを考えると、C・D幼稚園は子育て支援センターから3-5km以上離れていることから、この園に通っている家庭では子どもを連れて子育て支援センターへ徒歩で行くことは難しく、そのため圧倒的に自動車の利用が多くなっているといえる。また、複数回答ではあるが、全体における自動車利用の構成比をみると、73%の家庭が挙がっており、自動車利用が大半であることがわかる。

##### (2) 子育て支援センターに対する充実度

子育て支援センターの内容の充実度について質問した。その結果は表8に示している。これを見るとスティックビルでは、「2. やや思う」が40.2%で、次いで「1. かなり思う」が21.2%であった。また福祉センターでは、「2. やや思う」が58.3%一方、「3. どちらでもない」が25.0%であった。一方、「4. あまり思わない」と「5. 全く思わない」の割合が両者の施設ともに低いことから、全体的に子育て支援センターの内容についての評価が高いと思われる。また、評価とともに自由記述でどのような点が充実していないかを聞いたところ、「4-6歳の子どもや小学生が利用するにはつまらないから」「低年齢の子どもが利用する場所だから」という捉え方をしている家庭もあることから、「どちらでもない」といった評価が多いとも考えられる。

表9 子育て支援センターの魅力(複数回答)

項目	件数
子どもを遊ばせる空間があるから	128
家から外に出かけることができるから	69
他のお母さんと話せる機会が特であるから	49
育児情報が得られるから	39
専門家に育児相談ができるから	37
遊具の種類が多い	31
天候の悪い日に利用できる	22
遊具がよい(布、木、手作り)	21
広い	13
保育士・職員が親切、話しやすい雰囲気	11
室内である	8
体を動かす遊具がある(トランポリン)	7
イベント(お絵かき、遠足、体重測定)	7
無料の駐車場がある	4
お弁当、授乳などのスペースがある	4
きれいで雰囲気が良い	3
保育士・職員がいて安心	3
他の子どもと交流が特である	3
土日、夏休み中に利用できる	3
家事から開放されて思い切り子どもと遊べる	2
利用するのに無料	2
誰でも自由に來ることができる	2
合計	466

表10 子育て支援センターを利用しない理由(複数回答)

項目	件数
よく知らないから	52
センターに行く必要がないから	28
遊ぶ場所は他にもあるから	26
センターの場所が遠いから	20
忙しいから	18
センターに行きにくいから	15
センターに行く交通手段がないから	3
合計	162

### (3) 子育て支援センターのよい点

子育て支援センターの利用者に、利用していてどの点がよいかを自由記述で質問した。その結果は表9のようになっている。ここで、注目すべき点は、「天候の悪い雨や雪の日、夏休み中(幼稚園の休み中)に利用する」と答えたものが多かったことである。普段は低年齢の、幼稚園や保育所に未就園の子どもが多く遊びに来るが、土日や長期休みになると、年齢の上の幼児や小学生も遊びに来る姿がうかがえる。また、「家事から開放されて、子どもとおもいきり遊べる」といった意見もあり、家庭ではなかなか手が回らないがセンターならば集中して子どもと遊べることをよい点として挙げている母親もいる。

### (4) 子育て支援センターを利用しない理由

子育て支援センターを利用しない人に、その利用を

たずねた。その結果は表10に示している。その理由として、第一位が「よく知らないから」で52人、次に「忙しいから」が28人、「遊ぶ場所は他にもあるから」が26人、「支援センターの場所が遠いから」が20人、「忙しいから」が18人、「支援センターにはいきにくいから」が15人、「支援センターに行く交通手段がないから」が3人であった。その中には「子どもが大きくなったため利用しなくなった」「いつも利用する親子中心になっていて、入りづらい」と述べている家庭もあった。

### (5) 子育て支援センターへの要望

子育て支援センターをよく利用する人から、今後の改善点を質問した。意見の多いものを、以下にまとめてみる。

#### 1) 子育て支援センターの数と質の充実

- ・支援センターの場を増やすこと(3件)。
- ・砂や水遊びなどの屋外の場も提供してほしい(2)。
- ・もう少し広ければ(2)。体を動かす遊具を多く置いてほしい(1)。

#### 2) 子どもの遊び場の充実

- ・幼児から小学生低学年までの子ども用の遊び場やセンターを作してほしい(6)。
- ・雨の日でも利用できる、公園以外の室内遊び場で学童向けの施設を作してほしい(3)。
- ・保護者の同席が求められない、小学生のための施設がほしい(2)。

#### 3) 支援センターの運営内容の充実

- ・気軽に誰でも行ける雰囲気づくり(3)。
- ・利用者に対する職員の対応に配慮が必要(2)。
- ・様々なイベントの提供(1)。
- ・週1回の定休日をなくし、常時利用できればなおうれしい(1)。
- ・利用時間の延長(1)。夏場だけでも時間を延長してほしい。
- ・子ども用の本の量、質の充実(1)。
- ・保護者がセンターを利用しながら、情報や話ができる交換ノートの設置(1)。
- ・お弁当を食べることの可能なコーナーを、他の支援センターにも設置する(2)。
- ・子どもを常時、ひきつけるような遊具やおもちゃの整備(1)。

#### 4) 全般的な内容

- ・駐車場の量の整備(7)。
- ・支援センターの存在を知らせ、情報公開をさらにすすめる(4)。

## 5. 要約

松江市において、公共施設の一つである図書館と支援センターが、子育て家庭にどれほど利用されているのかに焦点を当てて調査した。まとめとして、以下の4点を挙げることにする。

1) 図書館については、自動車を利用する家庭は全体的に多いが、徒歩や自転車以最寄りの図書館や公民館に出かけている家庭もある。それらの図書館は、子育て家庭の身近な場所にあるから頻りに利用するのだが、小さい公民館などでは本の種類が限定されていたり、新しい本が入ってこないなどの問題もある。それゆえ、身近にある地域の公民館等の図書室の充実が望まれるだろう。また子育て支援センターは、今後、松江の各保育所に併設される予定であるが、センターの数が増えると、それぞれのセンターの質が問題になってくると思われる。各センターが、子育て家庭にとって身近な距離にあり、気軽に利用できるようになることを踏まえ、各センターの内容を充実させていくことも必要であろう。また、従来からある子育て支援センターの在り方も問われるということから、従来の支援センターと各センターとの役割分担や連携などが、今後、考慮されねばならない事項であろう。

2) 大きな図書館を利用する子育て家庭は、絵本の読み聞かせをする会などのイベント的活動を目標として、来ているようである。それゆえ、本の貸借だけでなく、本に関する様々な活動を展開する必要があると思われる。また子育て支援センターは、本来、幼稚園や保育所に就園前の乳幼児をもつ家庭の利用を前提としているが、松江市の場合、公共の公園のように、幼児や場合によっては小学校低学年の子どもも利用できるようになっている。また、保育所や幼稚園の園児が交流活動として支援センターを利用することもある。利用者によって多様な使われ方がなされる場になっているのだが、職員も多様な利用者に応じられる力量を持つ必要があるだろうし、利用者によって作り出される雰囲気や察知し、どの利用者も不快にならず、楽しく利用できるように配慮する必要があるといえる。子育て支援センターは、今後各保育所に併設される予定であるが、各々のセンターも子育て家庭にとってよりよい内容にしてゆく必要があるだろう。

3) 大きな図書館を利用する家庭の多くが、自動車を利用しているが、そこで問題になるのが駐車場のことである。前回の公園の調査も踏まえると、図書館ごとに、公園ごとに駐車料金が違っている。具体的に言えば、公園では、総合運動公園は無料、北公園は有料、図書館では県立図書館は無料、市立図書館は30分だけ無料、一方、子育て支援センターは何時間でも無料と

なっている。これは、利用者側からすると、同じ松江市内にある公共施設の駐車料金が違っているのかについて、多くの市民が不満に思っていることであろう。今後、松江市の公共施設の駐車料金についての統一的理解が出されるべきではないかと思われる。また、子育て支援センターは、利用者のほとんどが自動車を利用しているが、これは駐車場が確保されていて、かつ無料であるということが関係していると思われる。松江では今後、子育て支援センターが各保育所に併設される予定であるが、各々のセンターも駐車場の問題が必ず出てくると思われる。特に最近では、一時預かり事業も行っている保育所が増えており、遠方からでも空きを求めて保護者が利用している。松江において、各施設における駐車場の確保は、利用率に大きな影響を与えると考えられる。

4) 子育て中の家庭でも、松江市立図書館や県立図書館などの大きな図書館を利用したいと思っている。しかし、小さい子どもが騒いだりはしゃいだりするため、子どもを叱りながら、他の利用者に気を使いながら本を探しているようである。これでは、保護者が疲れてしまうので、図書館に行く気が失せたり、図書館に行っても十分に利用できないことにつながっているようである。また、子育て支援センターについても年齢の高い幼児や小学生を持つ家庭も利用したいがなかなか難しいといった意見もみられた。これは、松江には子どもが遊ぶことのできる場があまり整備されていないといったこともあるだろう。そのため、子どもとお母さん向けの図書館の設立や、図書館や公園、子育て支援センターを融合させたような総合的子ども用施設（児童館）ができれば、子どもも保護者も心おきなく利用できるのではないかと思う。松江市にもそのような施設の設立が望まれるだろう。特に、子どもの遊び場については、その要求度がかかなり高いといえる。松江は天候が悪いことが多く、雨や雪の日に子どもが活発に遊べるような場を強く望んでいるのであり、施設などのハード面の整備も進められる必要があると思われる。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました保護者や保育関係者の皆様に感謝申し上げます。

### 【 引用文献および註 】

- (1) 幼児保育研究会編 最新保育資料集1998 ミネルヴァ書房、1998、192-199頁。
- (2) 全国保育協議会. 保育年報1998-1999 全国社会福祉協議会、1999、90-98頁。
- (3) そここが知りたい 子育て支援 地域との交流 世界文化

社, 1998.

- (4)拙稿 松江市における子育て環境に関する研究—子育て家庭の公園利用の調査から—島根女子短期大学紀要, 第39号, 2001, 49-57頁.
- (5)松江市 歩いて暮らせる街づくり計画 松江市都市建設部, 2000.
- (6)松江市の場合, 「おもちゃの広場」は, 広く乳幼児が遊ぶ場として, 特に制限もなく, 自由に訪れて利用できる

る施設としての役割があり, 「おもちゃの図書館」は, 福祉・療育的な場や相談機能に重点を置きながら遊び場の提供をする役割を担っている。また「子育て支援センターあいあい」は, 特に幼稚園や保育所に未就園の家庭を対象にした, 低年齢向けの遊び場となっている。いずれも, 家族で自由に遊びに来ることのできる場の提供と相談が, 子育て支援事業の柱となっている。